



(ひかみちゃん)

ほだかの里だより



(ほだかくん)

—大高歴史の会会報— 第59号

令和7年(2025) 10月発行(秋号)

「ひかみちゃん」「ほだかくん」は、大高在住のイラストレーター大橋由起子さん作成の「大高歴史の会」のキャラクターです。大高は、昔々、「火上(ヒガ)の里」、または、「火高(ヒガ)の里」と呼ばれていました。

第 59号 目 次

61年前の大高駅発時刻	… …	深谷 P1~3	大高歴史の会のあゆみ	… … ……	P 5
			大高の伝統行事 第4回 大高地域コミセン祭り		
大高のできごとあれこれ・大高の行事予定	… …	P 4	… …	山口初宏	… P 6

留と小春の歴史茶話

61年前の大高駅発時刻

深谷 篤

酷暑の夏が過ぎた。大高緑地に秋の気配が訪れてきた。大高駅前にある喫茶「ひかみ」は、中学の同窓生の3人、留吉、政雄、小春のたまり場となっている。

小春がドアを開けたとき、カウンターテーブルをばさんで、留吉とマスターの政雄が本を見ていた。「何をしているの」と小春は覗き込んだ。

ふたりは「びっくりした。」と叫んだ。

「61年前の鉄道時刻表だぎゃ。」と留吉は言った。小春は時刻表を見て、「61年前の」と言い、げんな顔をした。

「春ちゃん、不思議そうな顔をしているが、61年前の大高駅発の列車時刻を知りたかったのだから。」と留吉は言い返した。

留吉は、「交通公社発行、国鉄監修時刻表1964年9月号」の復刻版を手に入れた。

この時刻表は、東海道新幹線開業直前のもので、翌月の10月1日から鉄道ダイヤは大改正となり、東京・大阪間は東海道新幹線を利用して行き来ができる。10月10日の東京国際オリンピック開催に間に合わせたのである。

210キロのスピードで、約4時間。当時東海道本線では、特急列車で6時間半かかっていた。2時間以上の時間短縮であった。

彼は、時刻表の東海道本線大高駅が載っているところを開いた。紙に時刻表から何かを転記していた。

政雄は、「何しとる。」と聞いた。

「大高駅発の列車の時刻を書き出しとるだぎゃ。」と留吉は、紙に数字と行先の駅名を書き込みながら答えた。「ようし、できたぞ。」と、小春と政雄に書き込んだ紙を見せた。

1964年9月の大高駅発時刻が、下りと上り、時間帯別に分けて記載されていた。(添付の一覧表参照)

「見てみ。一日の停まる本数は下りで35本、上りで33本。時間帯によっては1本の時もある。」と留吉が言った。

「今は、何本走ってるの。」と小春が尋ねた。

「下りが72本、上りが77本。今は2倍になってるわ。」と留吉が答えた。

現在は、大高駅発の列車は、通勤、通学の時間帯を除けば、1時間に4本の列車が停まる。15分位待てば列車が来る。また名古屋駅まで約15分で行ける。

「便利になったね。留さん。行き先を見ると、61年前は今と違って、下りでは大阪行、上りでは東京行があるね。そんなに遠くまで走っていたの。」と小春がまた尋ねた。

「そうなんだわ行き先を見てみると、下り方面では、近くでは米原行、大垣行が多いが、春ちゃんの言ったよ

うに、大阪行、京都行、姫路行と遠い所まで行ってるわ。」と留吉は答えた。

「上り方面ではよう、近くでは豊橋行が多い。武豊行もある。武豊行は名古屋駅を出発して、途中大府駅から武豊線に入って、終点武豊駅に着く。反対に武豊駅から名古屋駅まで行く列車もある(一覧表の鼠色にマークしてある箇所)。東京行、沼津行、静岡行と遠くに行く列車がある。」と留吉は付け加えた。

「1964年という、俺らは19歳。高校を卒業して1年後になる。小春さんは、高校を卒業して、就職したね。鉄道を利用したの。」と政雄が言った。

「そう、高校卒業して銀行に入った。当時は大高駅7時半頃の列車に乗って、名古屋駅に着き、地下鉄に乗り換えて栄町まで行った。大高駅から結構、人が乗った。通勤時間帯でもあるけど。それと、東京に親戚があったので、母親と電車で行った。確か、東海という名前の電車に乗った。名古屋駅から乗って、昼頃東京駅に着いた憶えがある。」小春が言った。

「春ちゃん、これかな。東海3号。名古屋駅10時30分発、東京駅15時53分着く。」

「留さん、どれどれ、見せてちょ。」と小春は、時刻表を見た。

「これこれ。東京駅まで5時間20分くらいかかっている。長いね。」

「春ちゃんは、車内でどうしていたの。」と留吉が聞いた。

「母親と話しながらもあるけど、楽しみはね。駅弁。名古屋駅でトリごはんを買って、車窓から景色を見ながら食べるのが好きだったわあ。」

「春ちゃん、駅弁、いくらだったか憶えている。」と留吉は尋ねた。

「憶えてないよ。いくらだった。」

「この時刻表に書いてあるけどよ。名古屋のトリごはんは100円、浜松のウナギ飯は200円、名産品はよう。名古屋の守口漬は200円、

いろいろは100円。」「そう言えば、東京への土産にいろいろを持っていったことがある。」と小春が言った。

「留、お前はどうかだった。」と政雄が言った。

「俺はよ、半田にある機械製造工場に勤めた。工場の

朝は早いから、7時前の列車に乗った憶えがある。武豊行きのディーゼルカーだった。6時47分大高駅発の列車に乗り、半田駅で降りた。約1時間かかった。武豊線は、単線で電化されてなかったわあ。」

「政、お前は高校を卒業して、どうした。」と留吉は尋ねた。

「俺は、高校を卒業して、東京に居る親戚を頼って、オリンピック景気に湧く東京で働いた。」

「そうすると、東京へは鉄道を利用して行くしかなかったらろう。」と留吉はさらに聞いた。

「そうだ。東京から帰ってくるときも、東京に戻る時も夜の列車を利用した。留、時刻表を見てくれ。」留吉は、時刻表をめくった。

「政、これだな。東京駅23時30分、大高駅は翌日6時11分に着く。大高から東京へ戻るときは大高駅20時13分発、東京駅に翌朝4時56分に着くわあ。」

「東海道本線は、特急とか急行がたくさん走っていた。運賃のほかに特急料金、急行料金を払わんといかんから。900円の運賃ですむ。節約、節約。」と政雄は言った。なるほど、留吉と思った。

「今でも憶えている。東京に帰るとき、大高駅のプラットホームで見送ってくれたおふくろから、『体に気をつけてなあ。無理すんなよ。』と言われた。おふくろの姿が小さくなるまで、窓から手を振った。車中では、おふくろが握ってくれたおむすびを涙ながらほおぼり、黄色たくわんをかじった。」と政雄は60年前を思い出して語った。

留吉は時刻表を閉じた。

「ごめんよ。しみりさせて。コーヒー、入れるわあ。」政雄が二人に言った。留吉も小春もうなずいた。小春はハンカチで目を押さえた。

政雄のコーヒーの淹れ方は、サイホン方式という方法であった。コーヒーの淹れ方を知らない留吉であるが、使う道具が中学時代の理科の授業で思い出すフラスコとアルコールランプであった。ポコポコと湧き上がるお湯の音が気に入っていた。

二人の前に、コーヒが出た。香ばしい香りがあたりに漂った。外は秋雨になっていた。 (完)

1964年（昭和39年）9月 大高駅発時刻表

※（ ）内は、行き先名

時刻	下り（名古屋方面）	上り（豊橋方面）
4時		58（東京）
5時		47（蒲郡）
6時	07（美濃赤坂） 11（大阪） 52（名古屋）	47（武豊）
7時	12（大阪） 26（大垣） 33（名古屋） 40（名古屋） 49（名古屋）	07（東京） 20（豊橋） 38（武豊） 45（浜松）
8時	06（米原） 35（大垣）	12（豊橋） 48（豊橋）
9時	21（名古屋） 27（名古屋） 39（米原）	31（東京）
10時	03（米原） 35（大垣）	31（浜松） 58（豊橋）
11時	12（米原）	
12時	21（米原） 50（名古屋）	30（東京） 59（豊橋）
13時	08（名古屋） 54（大垣）	52（浜松）
14時	28（米原）	13（武豊） 21（豊橋） 32（沼津）
15時	16（大垣） 53（京都）	14（豊橋）
16時	54（大垣）	07（東京） 15（豊橋） 56（豊橋）
17時	36（関ヶ原）	28（武豊） 36（静岡） 59（蒲郡）
18時	05（米原） 28（米原） 59（名古屋）	31（静岡） 44（武豊）
19時	08（米原） 51（米原）	14（沼津） 37（浜松）
20時	45（名古屋）	13（東京）
21時	33（関ヶ原） 55（名古屋）	12（豊橋） 47（豊橋）
22時	25（大垣）	41（豊橋）
23時	19（姫路）	
計	35本	33本

<大高のできごと あれこれ>

[令和7年(2025)7月~9月]

「龍宮社例祭」(7月9日:旧暦6月15日)

同日夜、高見町内会の主催により字中川に鎮座する同社(住吉社)にて執り行われました。

「大高町夏祭り」(7月26日)(土)夜

大高学区・大高北学区共同主催の夏祭りが大高北小学校グラウンドにて行われました。

当日は山口晃司緑区観光大使のオープニング演奏に続き、盆踊りが披露され会場はゲームや遊戯にと大勢の参加者で溢れ大盛況でした。



「大高南学区夏まつり」(8月2,3日)(土日)夜

恒例の夏祭りが森の里公園にて行われました。

当日は猛暑ながら好天に恵まれ浴衣姿の老若男女が集い盆踊りを満喫されていました。二日間に渡り、すごい人で夜遅くまで賑わいました。



「大高緑地 リニューアルへ」(9月9日)(火)

愛知県は本年度の補正予算案に県営大高緑地のリニューアル構想の調査費用を計上すると発表。予算案には環境調査や民間業者から活用方法について意見を聞くための調査費用を計上。

大高緑地は1963年に開園し、広さ12177㎡、開園から62年を経過して諸設備が老朽化しています。

「敬老祝賀会」(9月15日)(月)

敬老祝賀会が大高小学校体育館にて行われました。大高・大高北学区の主催で事前に申し込みされた75歳以上の高齢者を招き開催、式典後は余興も披露されました。

その中で今年はステージにて昔懐かしい♪大高音頭♪の音声と共に久の会による踊りも行われ会場を沸かせました。

「大高^{ぬいぼ}斎田拔穂祭」(9月28日)(日)

初秋を思わせる朝夕の涼しさの下、11時から収穫をお祝いする拔穂祭が行われました。

神事の後、斎田にて、たわわに実った稲穂を収穫する儀式も古式ゆかしく行われました。

当日は大高地域観光推進協議会主催の散策会も実施され大高の伝統行事をPRしました。

「下村神明社例祭」(9月28日)(日)

秋らしい晴天の下、11時から丸根の下村神明社にて下村講の人々による例大祭が執り行われました。今年も神前にて薪を炊いての神事で最後は記念撮影での締めでした。



「田中神明社例大祭」(9月28日)(日)

13時30分から田中神明社にて例大祭が行われました。町内代表者出席の下、神事に続き、伝統の子供相撲が奉納されました。相撲では境内いっぱいの人々の声援に応じて真剣な力強い一番が取り組まれ若い親子の頑張りが目立ちました。



＜大高歴史の会のあゆみ＞
〔令和7年(2025)7月～9月〕

＜例会＞ [第2・第4月曜日9:30～12:00 例会(勉強会)を八幡社参集所で開催]

第346回(7/14) ほだかの里だより第27号
P1～3 <留と小春の歴史茶話>大高あれこれ9《秋葉講》
P3 緑区の6Sと「大高」

第347回(7/28) ボランティアガイドの勉強 第3回
「大高祭り」

8月第2第4月曜日(11、25日)の例会は盆行事及び猛暑のため休止とした。

第348回(9/8) ほだかの里だより第27号
P4～6 幻の「大高絞り」—その絞り模様と技
P7 大高のできごとあれこれ(平成29年7～9月)
P8～9 大高の古文書 第6回 歎願たてまつりそうろう御事

第349回(9/22) ほだかの里だより第27号
P10 大高歴史の会のあゆみ(平成29年7～9月)
<その他の活動> [会のあれこれ情報]
P11 大高の歴史的石造物を訪ねて [第26回] 大高領主志水家墓碑—その1
P12 史跡説明板の紹介 第7回「大高城跡」
ほだかの里だより第28号
P1～3 <留と小春の歴史茶話>大高あれこれ10《春の祭り》

＜その他の活動＞ [会のあれこれ情報]

「会報第58号(令和7年夏号)発行」(7月9日)

約700部、印刷、於 緑区社会福祉協議会 丁合は1月14日の例会にて実施
今回の58号から次の場所に各10部会報を置いていただき需要調査を試みる。
南生協フラカム、大高台集会所、大高南集会所

「ほだかの里だより58号と50～55号をWEB公開」

会報「ほだかの里だより58号」が大高地域観光推進協議会のホームページ表紙のニュース/イベント情報の中に掲載されました。引き続きバックナンバーの55～50号が7月31日に公開され、50～58号がシリーズでWEB公開されました。

＜ガイド実績＞ 史跡・町並み散策ガイド依頼受付窓口： 深谷篤 090-8952-8610

9月28日(日) 1名 大高斎田 抜穂祭景がぐツアー (深)

ガイド実績 (7-9月) 1件 1名

大高の行事予定(2025年10月～2026年1月)

10月5日(日)14:00～大高祭り 於 氷上姉子神社
10月25日(土)10:00～みどり・シティ・フェスティバル 緑区民祭 於 大高緑地
11月15・16日(土・日)10:00～16:00 大高地域コミセン祭り
11月22日(土)9:30～大高学区ふれあいウオーキング
11月30日(日)10:00～サムライ・ニンジャ フェスティバル2025 於 大高緑地
12月31日(水)～1月1日(木)各寺社越年行事(氷上姉子神社、八幡社、石神白龍社など)
1月12日(月)10:00～成人式(大高中学校) 大高3学区合同

大高の伝統行事 第4回 「大高地域コミセン祭り」

山口初宏

大高には古くから行われている数々の伝統行事がある。その中から代表的なものを謂れや内容とともに順次、紹介する。

第4回は比較的新しいがコミセン祭りである。

概要

大高地域コミセンは旧大高公民館のことで地域の方々の憩いの場としてまた活動・練習の場所として利用されている。

コミセン祭りは日頃の活動成果を地域の皆様に披露するために年1回開催されている。

昨年までに 14 回実施

期日 毎年 11 月中旬の土・日曜日
本年は 11 月 15・16 日 開催予定
場所 大高地域コミュニティセンター
所在地 大高町字門田 46 番地の 1



コミセン祭りの内容

内容は公演と作品展を二つに渡り公演は一階のステージ、作品展は階段及び 2 階の談話室及び通路多目的室、会議室、和室にて開催される。

昨年(2024)のプログラム

「公演会」

- 1 緑区観光大使 山口晃司 三味線演奏
- 2 グループ友 大型紙芝居
- 3 バレエサークル C バレエダンス
- 4 大高二胡の会 二胡の演奏
- 5 大高歴史の会 ブラックシアター
- 6 岡林組 ギター演奏と歌
- 7 SPG CHEER PROJECT チアダンス
- 8 みどりオカリナアンサンブル オカリナ演奏
- 9 おんがく広場 歌声コンサート
- 10 名古屋テアトロ合唱団 オペラ合唱

- 11 健康太極拳クラブ 太極拳演舞
- 12 大高ベリーダンス ベリーダンス

[作品展]

- 1 2階談話室及び2階通路 大高歴史の会
及び大高地域観光推進協議会
2階多目的室 絵手紙サークル大高 (絵手紙)
- 2 2階会議室 フォーサークル大高(フォーリング)
だれでもアートのクラブ (絵画)
- 3 2階和室1 書楽会 (書道)
はつらつクラブ (作品)
SHIBORI CRABU] (絞り作品)



絵手紙サークル大高の作品例

ほだかの里だより WEB 公開

ほだかの里だより 50~58 号は下記にて公開

<https://odaka-kankou.com/>

大高の歴史を学び伝える

大高歴史の会 会報 第 59 号 2025 年 10 月

[平成 21 年(2009) 4 月発足]

連絡先 (代表) : 山口 初宏
〒459-8001

名古屋市緑区大高町字天神 4 4

052-623-2307

散策関係 担当 : 深谷 篤

090-8952-8610

会報は年 4 回発行の予定です。

(冬 1 月、春 4 月、夏 7 月、秋 10 月)

会報バックナンバーご希望の方は上記連絡先へお問い合わせ願います

(本号の編集は上坂広人、山口初宏が担当しました)